

3
南北の王
聖徒伝 134

「神の忍耐を 軽んじるな」

列王記 II 15:8～38 歴代誌 II 27章 北王国末期とヨタム王

アウトライン

0. イントロダクション

I. エフー王朝の終焉 列Ⅱ15章 8～12節

Ⅱ. 混沌を極める北王国 列Ⅱ15章13～31節

Ⅲ. 南11代目・ヨタム 列Ⅱ15章32～38節

歴Ⅱ27章

Ⅳ. まとめと適用

滅びに向かう混沌の時代の歩み方



サマリア

聖書の世界観には、初めがあり、終わりがある

天地創造

人類の墮罪

キリストの
十字架の
死と復活



世界の回復
(完全な神の国)

キリストの再臨

これから起きること

今の時代(教会時代)

ゴールは、世界の回復、完全な永遠の「神の国」



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

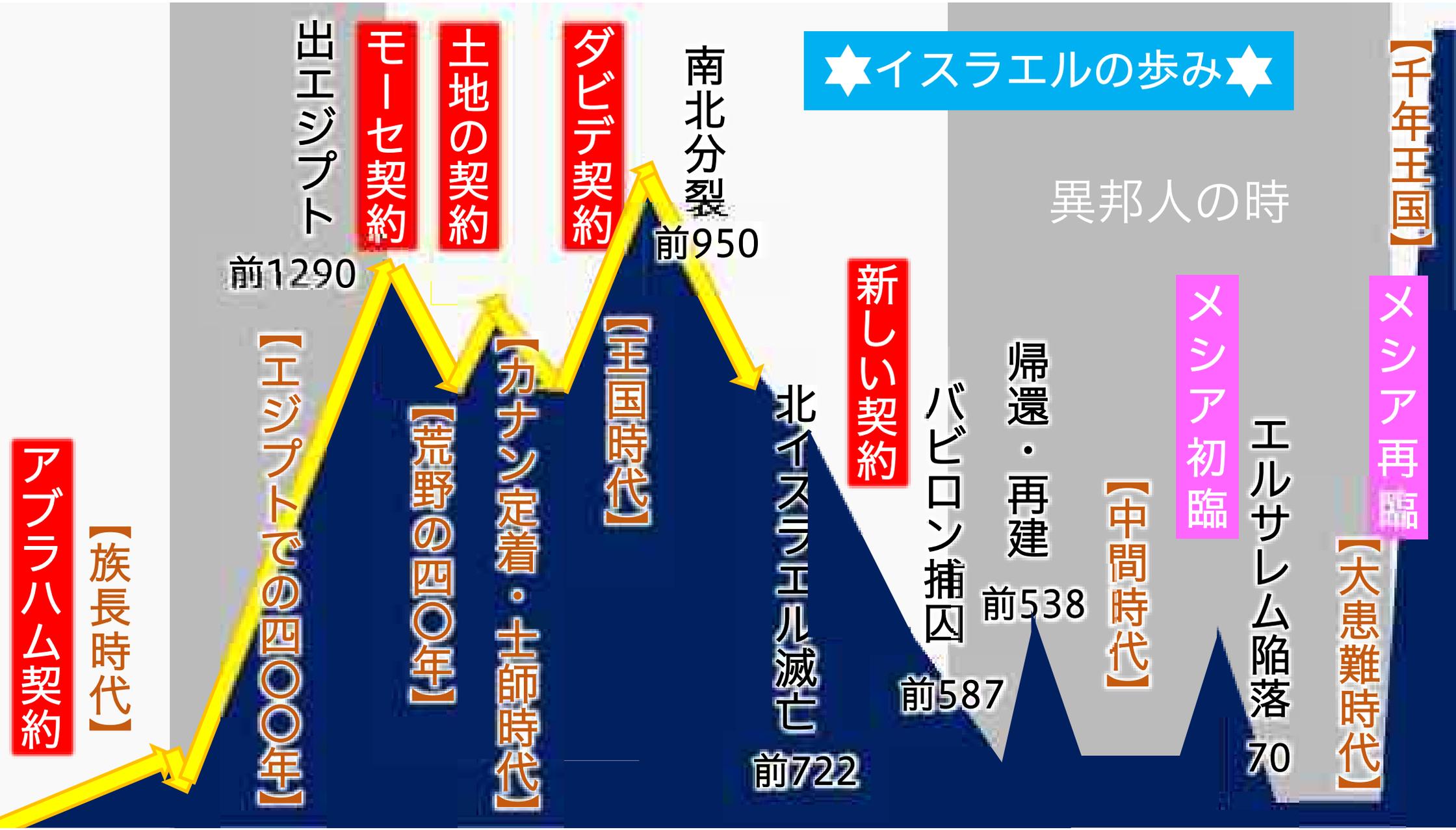
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



異邦人の時

【千年王国】

メシア再臨

【大患難時代】

エルサレム陥落 70

メシア初臨

【中間時代】

帰還・再建 前538

バビロン捕囚 前587

新しい契約

北イスラエル滅亡 前722

南北分裂 前950

ダビデ契約

【カナン定着・士師時代】

【荒野の四〇年】

モーセ契約

【エジプトでの四〇〇年】

出エジプト 前1290

【族長時代】

アブラハム契約

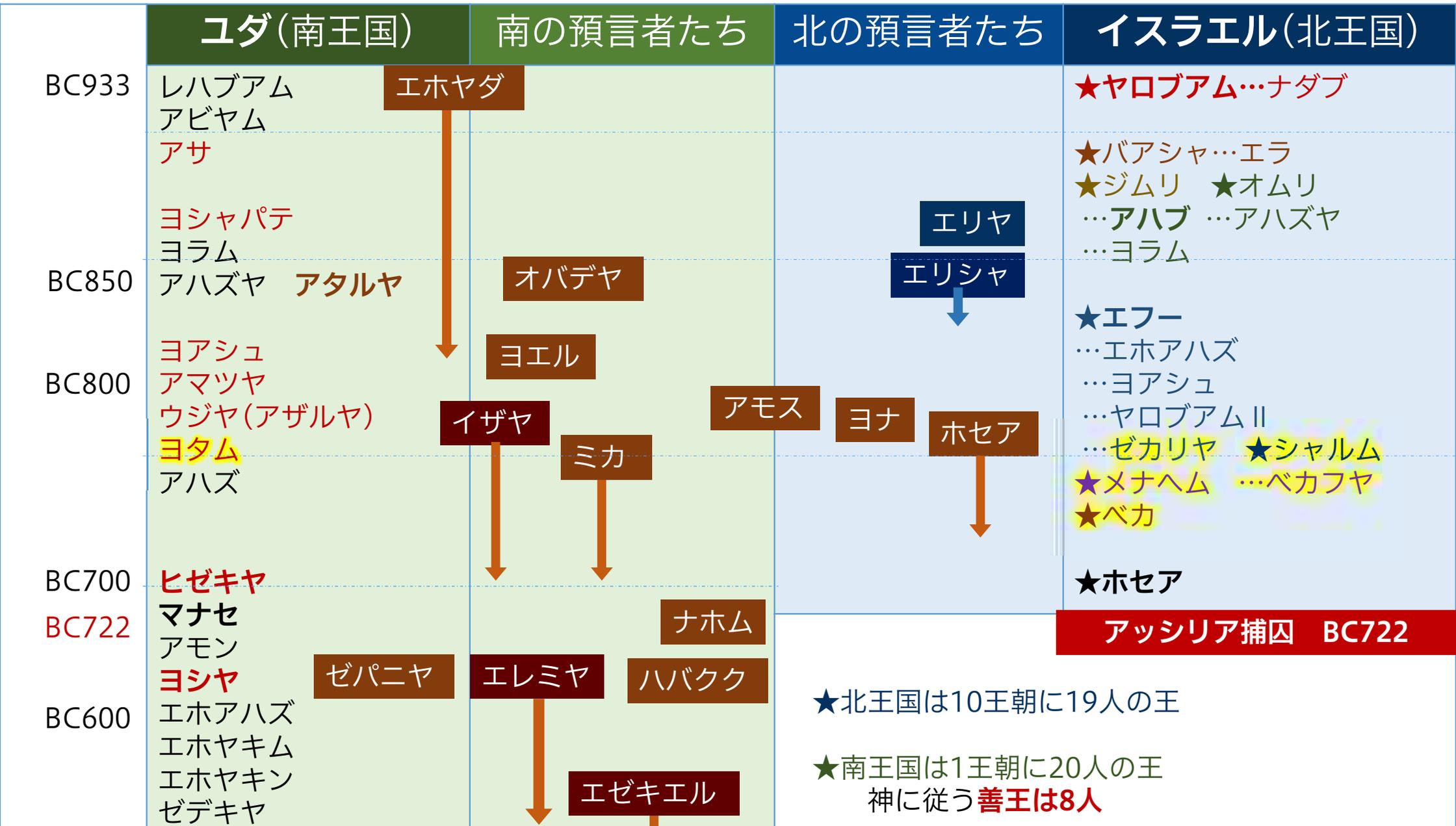
列王記 (第一〜第二)

第一	1〜11章	ソロモン王の治世 神殿建築	イスラエル(統一王国)	
	12〜16章	王国の分裂	ユダ(南王国)	イスラエル(北王国)
第二	17〜22章	預言者エリヤ (アハブ王の生涯)	レハブアム アビヤム アサ ヨシャパテ ヨラム アハズヤ アタルヤ ヨアシュ アマツヤ ウジヤ ヨタム アハズ ヒゼキヤ マナセ アモン ヨシヤ エホアハズ エホヤキム エホヤキン ゼデキヤ	ヤロブアム…ナダブ バアシャ…エラ ジムリ オムリ…オムリ…アハブ …アハズヤ…ヨラム エフー…エホアハズ …ヨアシュ …ヤロブアムII …ゼカリヤ シャルム メナヘム ベカフヤ ベカ ホセア
	1〜2章		オバデヤ	エリヤ エリシャ
	2〜13章	預言者エリシャ	ヨエル	アモス ヨナ ホセア
	14〜17章	二つの王国の歴史 北王国滅亡まで	イザヤ	ミカ
	18〜25章	ユダ王国の歴史 滅亡まで	エレミヤ	エゼキエル

バビロン捕囚 BC586

アッシリア捕囚 BC722

★北王国は10王朝に19人の王
善王はなし
★南王国は1王朝に20人の王
神に従う善王は8人

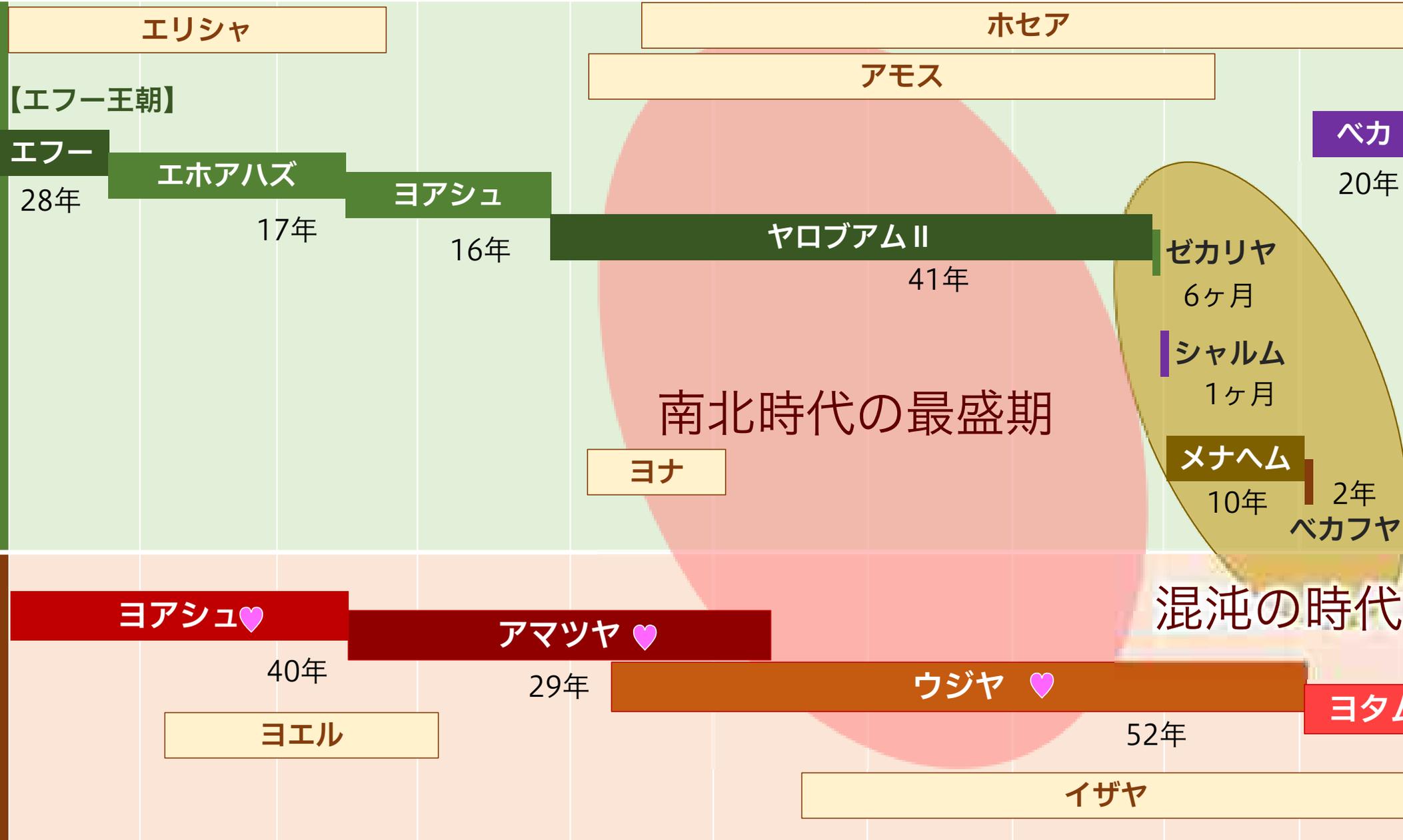


★北王国は10王朝に19人の王

★南王国は1王朝に20人の王
神に従う善王は8人

北王国イスラエル

南王国ユダ



【北王国イスラエルの歩み】 II 列王記

- ソロモンの偶像礼拝の罪の結果が、南北分裂。
- 北の最初の王ヤロブアムは、王国の南北に、金の子牛を築き、自ら勝手に祭司を任命した。
- 北王国の王は皆、**ヤロブアムの罪の道**を歩んだ。アハブに至っては、バアル礼拝を国教化した。
- 最悪の時代に、エリヤ、エリシャが遣わされ、預言の通り、アハブの一族は滅ぼされた。神に用いられたエフーに、4代目までの王位継承が約束された。



【南王国ユダの歩み】 II 列王記

- 神殿のあるエルサレムを都とした南王国は、神への従順と背きの間を揺れ動き続けた。
- 北王国のアハブの罪に呑み込まれ、王家全滅の危機に瀕したが、主がダビデの系譜を守られた。
- 北王国と南王国は、ヤロブアム2世、ウジヤの時に最盛期を迎えた。
- 一方、はるか北では、強国アッシリアがさらに勢力を広げていた。



【南王国ユダの歩み】 II 列王記

- 神殿のあるエルサレムを都とした南王国は、神への従順と背きの間を揺れ動き続けた。
- 北王国のアハブの罪に呑み込まれ、王家全滅の危機に瀕したが、主がダビデの系譜を守られた。
- 北王国と南王国は、ヤロブアム2世、ウジヤの時に最盛期を迎えた。
- 一方、はるか北では、強国アッシリアがさらに勢力を広げていた。





Ⅰ. エフー王朝の終焉

列王記Ⅱ 15章8～12節

ナザレの夕刻

北14 ゼカリヤ 主の約束 列Ⅱ 15:8～9

ユダの王アザルヤの第三十八年に、ヤロブアムの子ゼカリヤ*がサマリアでイスラエルの王となり、六か月の間*、王であった。

彼は先祖たちがしたように、【主】の目に悪であることを行い、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪から離れなかった。

*“ヤハウエは覚えておられる”

*歴代の王で、三番目の短さ。

■ 神に逆らい、偶像を拝み…。またしても、罪が積み上げられたただけだった。



金の子牛は
200年間、立ったまま

北14 ゼカリヤ 約束の期限 列Ⅱ 15:10~12

ヤベシュの子シャルムは、彼に対して謀反を企て、民の前で彼を打ち殺し*、彼に代わって王となった。

ゼカリヤについてのその他の事柄は、『イスラエルの王の歴代誌』にまさしく記されている。

【主】がかつてエフーに告げられたことばは、「あなたの子孫は四代までイスラエルの王座に着く*」ということであったが、はたして、そのとおりになった。

*公衆の面前で。よほどシャルムに人望がなかった？

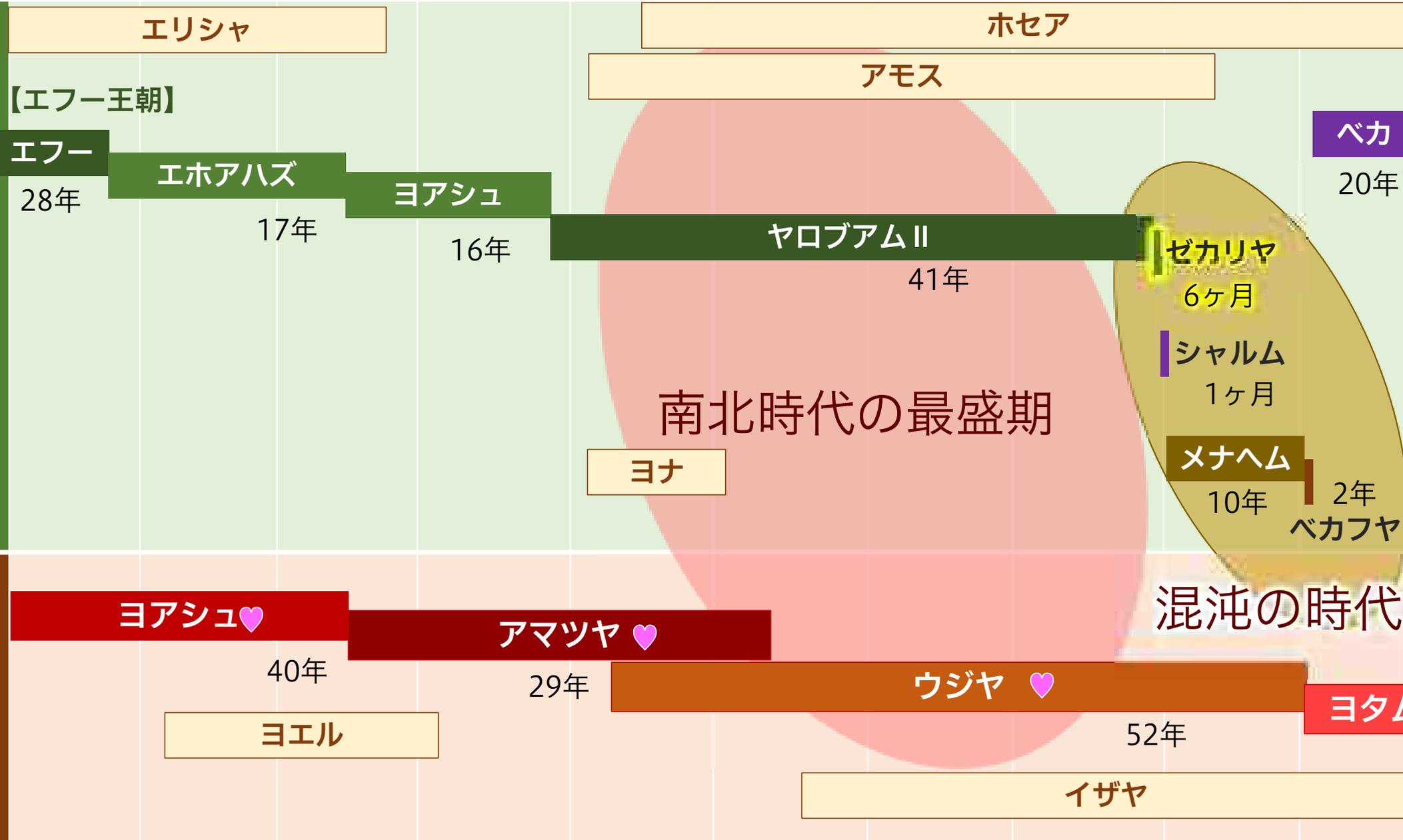
*主に忠実に仕え、アハブの一族を討ち取ったゆえ。

→ヤロブアムの道を歩み、祝福は4代止まり。



北王国イスラエル

南王国ユダ



南北時代の最盛期

混沌の時代



Ⅱ. 混沌を極める北王国 列王記Ⅱ 15:13～31

サマリア

北14 シャルム 一ヶ月天下 列Ⅱ15:13

ヤベシュ*の子シャルム*は、ユダの王ウジヤの第三十九年に王となり、サマリアで一か月間*、王であった。

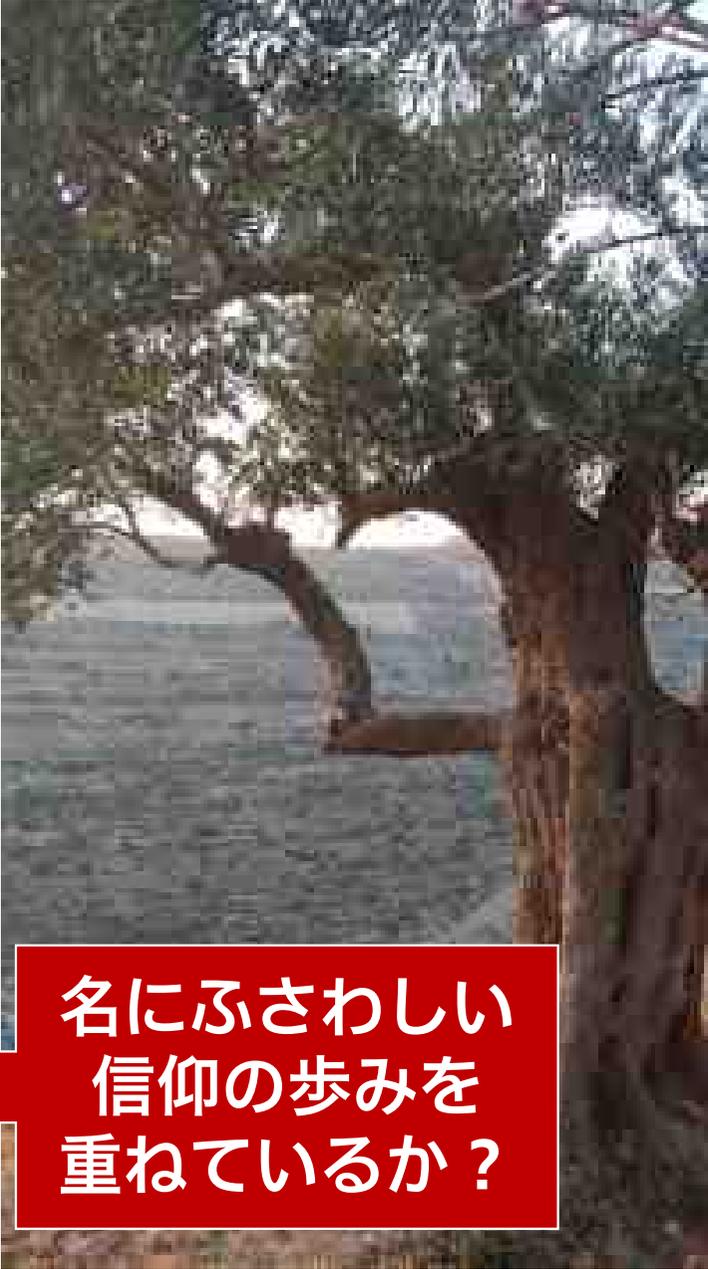
*“渴いた” …麦の収穫前には乾燥期が必要。

乾季の始まりが収穫期。

*“報い” …褒美も罰も、どちらも報い。

*ジムリの七日間に次ぐ短さ。

■ 願いをもってつけられたはずの名前も、不信仰の身には、もはや皮肉でしかない。



名にふさわしい
信仰の歩みを
重ねているか？

北14 シャルム 反乱 列Ⅱ 15:14~15

ガディの子メナヘムは、ティルツァ* から上って
サマリアに至り、ヤベシュの子シャルムをサマリ
アで打ち、彼を殺して、彼に代わって王となった。

シャルムについてのその他の事柄、彼が企てた謀
反は、『イスラエルの王の歴代誌』にまさしく記
されている。

*“めでたい、よい”

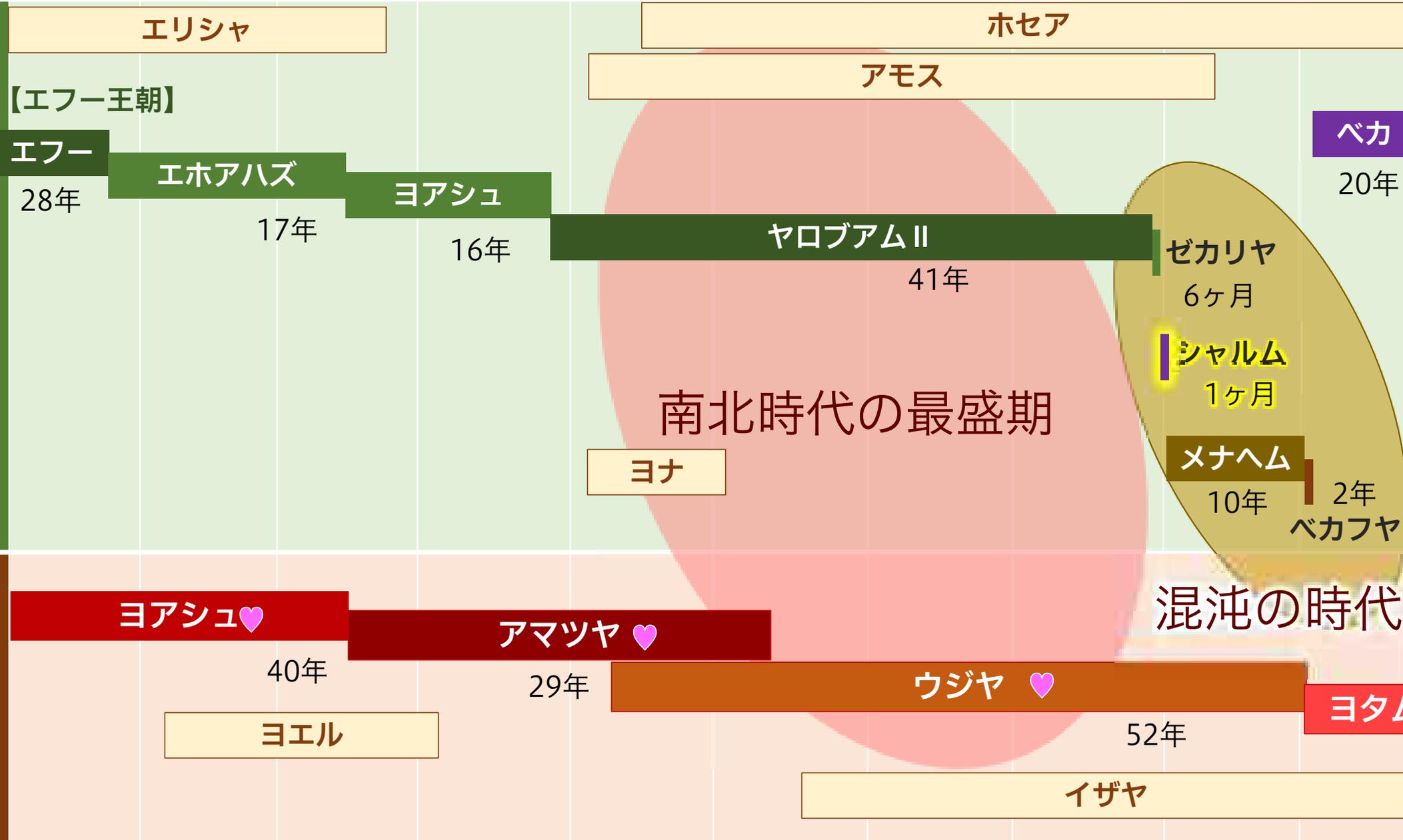
■ゼカリヤが半年、メナヘムは一ヶ月。

→混沌が極まっていく北王国の末期的状況。



北王国イスラエル

南王国ユダ

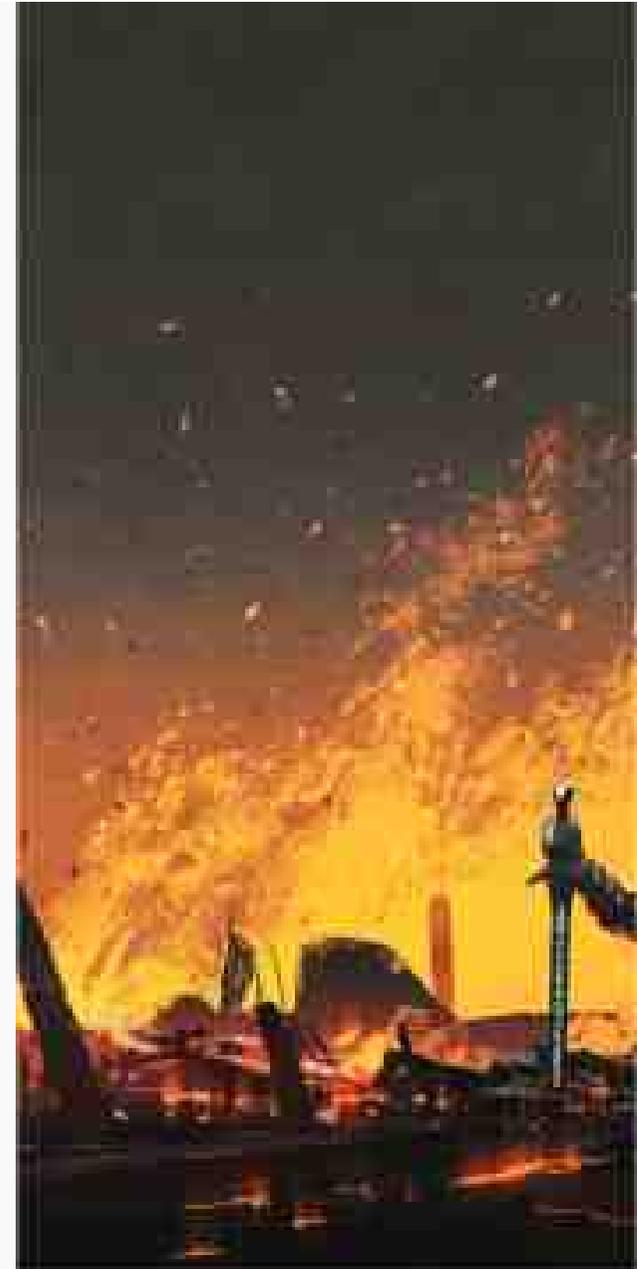


北15 メナヘム 残虐な王 列 II 15:16~17

そのとき、メナヘムはティルツァから出て、ティフサフとその住民、その領地を討った。彼らが城門を開かなかつたので、その中のすべての妊婦たちを打ち殺して切り裂いた。

ユダの王アザルヤの第三十九年に、ガディの子メナヘムがイスラエルの王となり、サマリアで十年間、王であった。彼は【主】の目に悪であることを行い、一生の間、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪から離れなかつた。

- 恐怖で隷属させるのは、独裁者の常套手段。
→ 有史以来、今も変わらない人間の残虐さ。



北15 メナヘム 王プル 列Ⅱ15:19

アッシリア*の王プル*がこの国に来たとき、メナヘムは銀千タラント*をプルに与えた。プルの援助によって、王国を強くするためであった。

*アッシリアの名は、ここが初出。

*ティグラト・ピレセル3世

…捕虜の目をえぐりとるなど、残虐さで恐れられた。占領した民を他の地域の民と入れ替える強制移住政策を強いた。

*銀34t



北15 メナヘム 王の死 列Ⅱ15:20～22

メナヘムは、イスラエルのすべての有力者にそれぞれ銀五十シェケルを供出させ、これをアッシリアの王に与えたので、アッシリアの王は引き返し、この国にとどまらなかった。

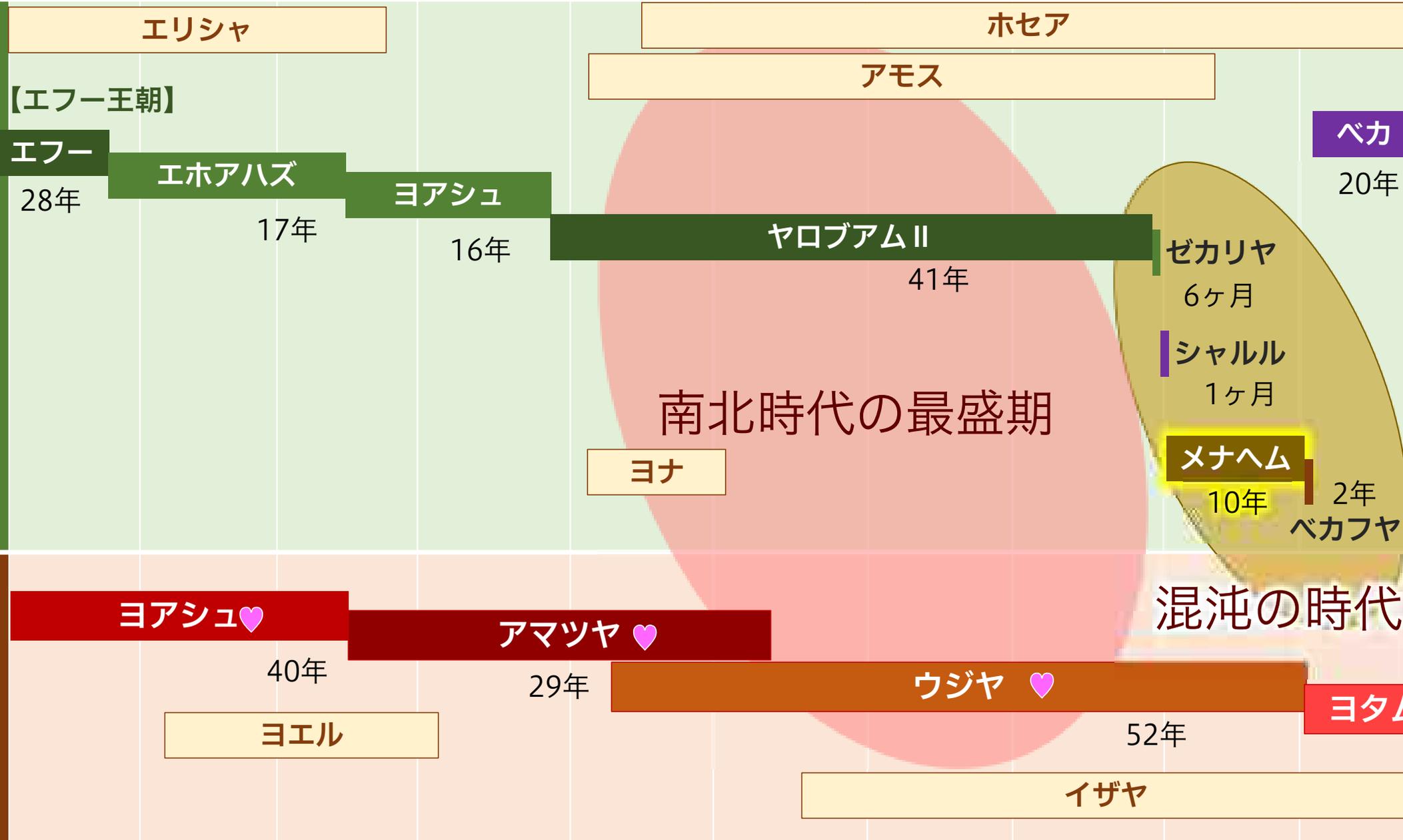
メナヘムについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。メナヘムは先祖とともに眠りにつき、その子ペカフヤが代わって王となった。

- 莫大な上納金で滅亡は免れたのも、一時しのぎ。
要求は拡大の一方。独裁者の支配欲は止められない。



北王国イスラエル

南王国ユダ



南北時代の最盛期

混沌の時代

北16 ペカフヤ 即位 列Ⅱ 15:23～24

ユダの王アザルヤの第五十年に、メナヘム*の子ペカフヤ*がサマリアでイスラエルの王となり、二年間、王であった。

彼は【主】の目に悪であることを行い、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアムの罪から離れなかった。

*“慰める者”

*“ヤハウエは見ています”



北16 ペカフヤ 王の死 列Ⅱ15:25～26

彼の侍従、レマルヤの子ペカは、彼に対して謀反を企て、サマリアの王宮の高殿で、ペカフヤとアルゴブとアルエ*を打ち殺した。ペカには五十人のギルアデ人*が加わっていた。ペカはペカフヤを殺し、彼に代わって王となった。

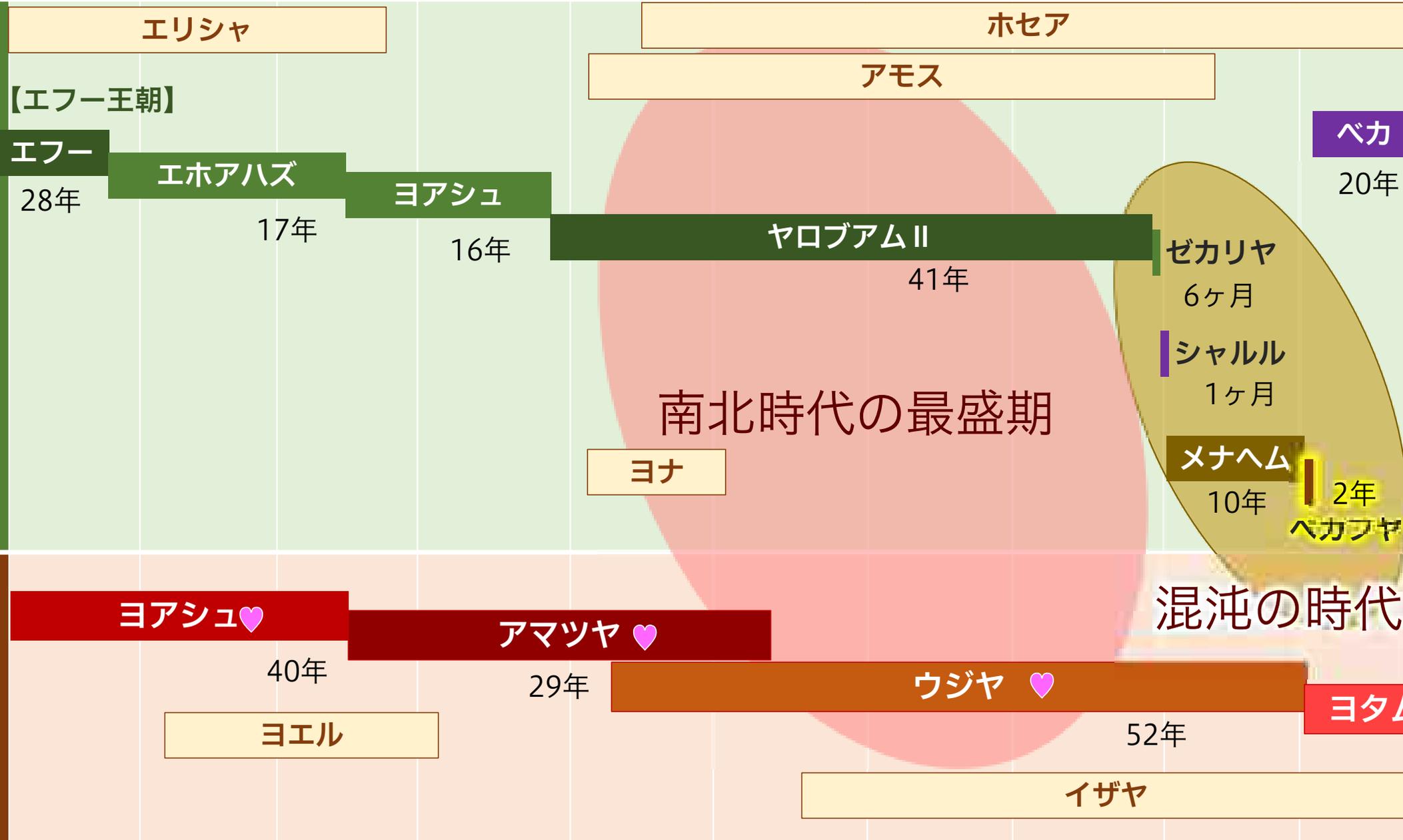
ペカフヤについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのことは、『イスラエルの王の歴代誌』にまさしく記されている。

*跡取り息子たち *ヨルダン川東岸の民



北王国イスラエル

南王国ユダ



南北時代の最盛期

混沌の時代

北17 ペカ 即位 列Ⅱ15:27～28

ユダの王アザルヤの第五十二年に、レマ
ルヤ*の子ペカ*がサマリアでイスラエルの
王となり、二十年間、王であった。

彼は【主】の目に悪であることを行い、
イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロ
ブアムの罪から離れなかった。

*“ヤハウエによって守られた”

*“開かれた”



北17 ペカ 王の死 列 II 15:29

イスラエルの王ペカの時代に、アッシリアの王ティグラト・ピレセルが来て、イヨン、アベル・ベテ・マアカ、ヤノアハ、ケデシュ、ハツオル、ギルアデ、ガリラヤ、ナフタリの全土を占領し、その住民をアッシリアへ捕らえ移した*。

* 第一次アッシリア捕囚(BC733)

→ 強制移住政策



アッシリアによるヨルダン川東岸の占領

歴代誌第一 5章26節

そこで、イスラエルの神は、アッシリアの王プルの霊、すなわちアッシリアの王ティグラト・ピレセルの霊を奮い立たせられた。それで彼は、ルベン人とガド人、およびマナセの半部族を捕らえ移し、彼らをハラフ、ハボル、ハラ、ゴザンの川に連れて行った。今日もそのままである。

北17 ペカ 王の死 列 II 15:30~31

そのとき、エラ*の子ホセア*はレマルヤの子ペカに対して謀反を企て、彼を打ち殺して、ウジヤの子ヨタムの第二十年に、彼に代わって王となった。

ペカについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのことは、『イスラエルの王の歴代誌』にまさしく記されている。

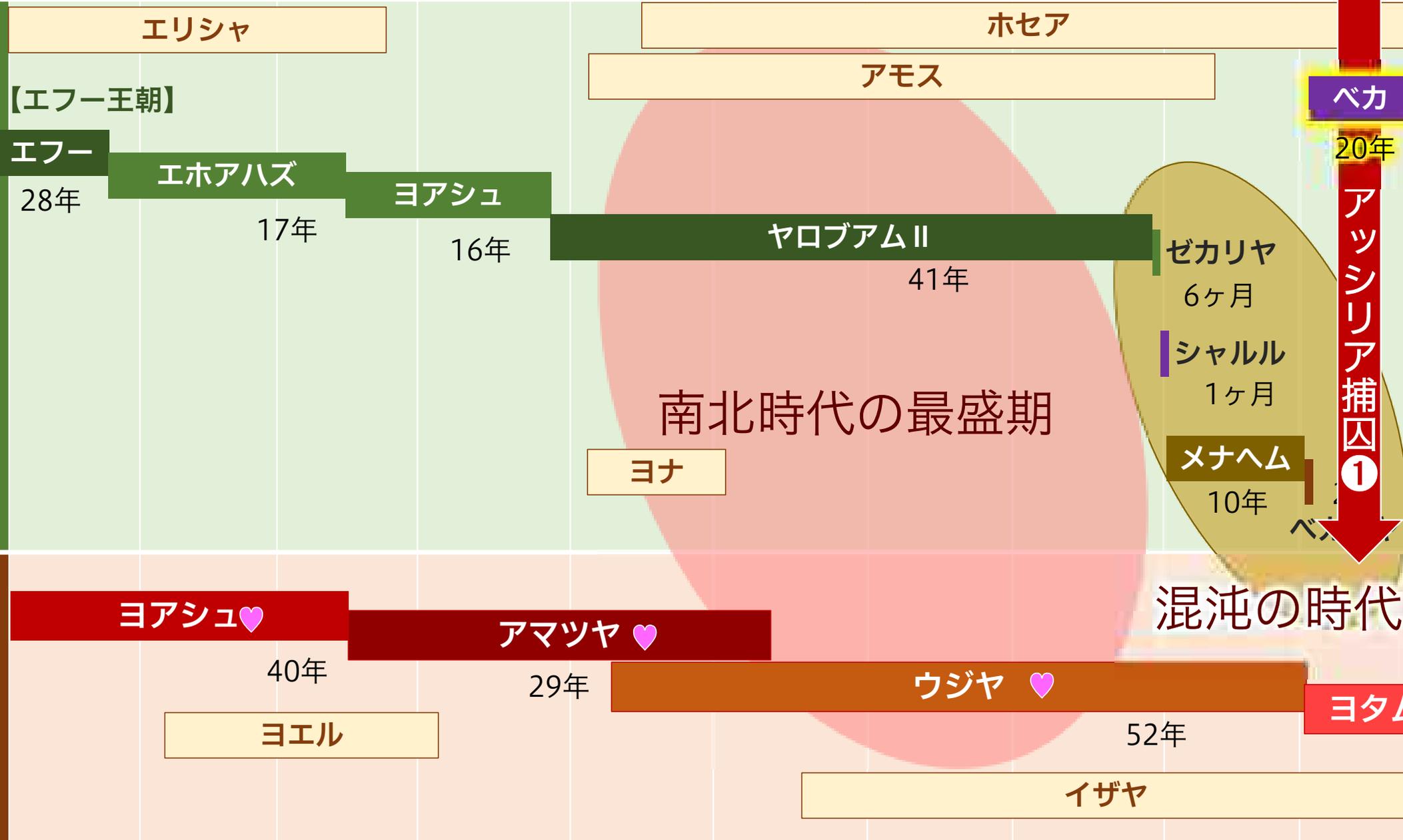
*“櫛の木”

*“主は救い”



北王国 イスラエル

南王国 ユダ



南北時代の最盛期

混沌の時代

ベカ

20年

アッシリア捕囚①

ベカ

ヨタム



アッシリア

ニネベ

バビロン

ダマスコ

サマリヤ

エルサレム

エジプト

「肥沃な三日月地帯」
ティグリス・ユーフラテス川から
イスラエルに至る地を占領したアッシリア



Ⅲ. 南11代目・ヨタム

歴Ⅱ27章(列Ⅱ15:32~38)

南11 ヨタム 即位 歴代誌Ⅱ 27:1~2

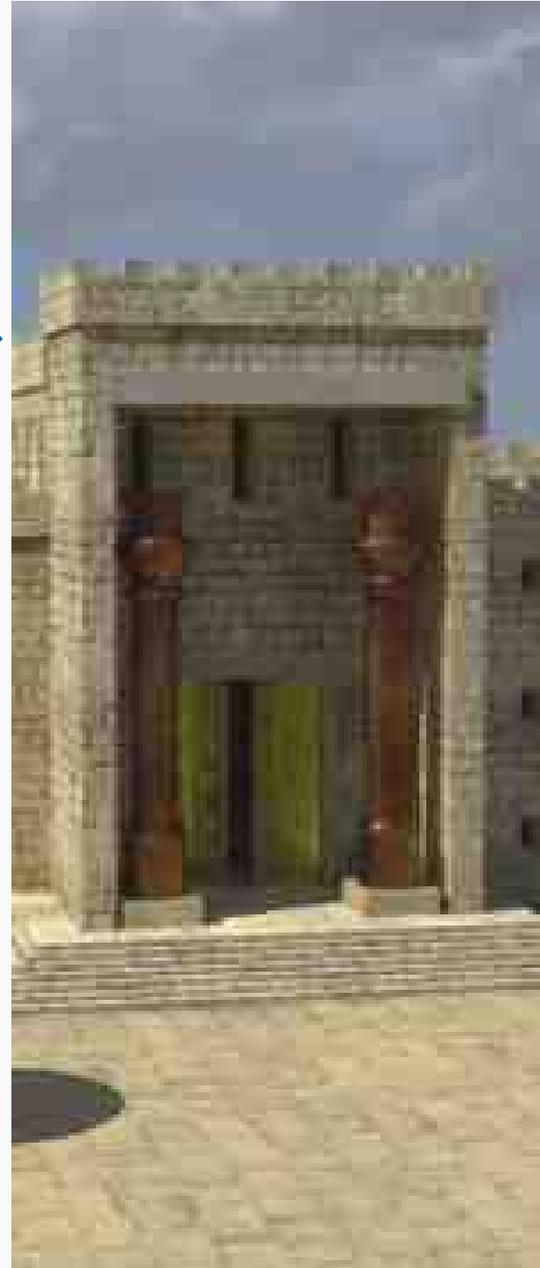
ヨタム*は二十五歳で王となり、エルサレムで十六年間、王であった。彼の母の名はエルシャ*といい、ツアドク*の娘であった。彼は、すべて父ウジヤが行ったとおりに、【主】の目にかなうことを行った。ただし、【主】の神殿に入ることはしなかった*。民は依然として滅びに向かっていった。

*“ヤハウエは完全”

*“置き換えられた” * “公正な”

*父ウジヤは、祭司の権限を侵して裁かれた。

■混沌を極める北王国の一方、南王国も民の不信仰は変わらず、着実に滅びに向かっていった。



南11 ヨタム 建築 歴代誌Ⅱ 27:3~4

彼は【主】の宮の上の門を建てた。また、オフェルの城壁の上に多くのもの*を建てた。

彼はユダの山地に町々を建て、森林地帯には城塞とやぐらを築いた。

*やぐらなど、防衛上の設備か。

■都の防衛兵器の開発で名を馳せたウジヤ。

その子ヨタムは、防衛設備を建設した。

➔迫るアッシリアへの危機感が背景に？



南11 ヨタム 勢力 歴代誌Ⅱ 27:5～6

彼はアンモン人の王と戦い、彼らに打ち勝った。その年、アンモン人は銀百タラント(3.4t)、小麦一万コル*(230万ℓ)、大麦一万コルを彼に贈った。アンモン人はこれだけのものを彼に納め、二年目も三年目も同じようにした。ヨタムは勢力を増し加えた。彼が、自分の神、【主】の前に、自分の道を確認したものとした*からである。

*日本で言うところ一万石?! コンテナ700個分!!

*律法の時代の祝福の条件

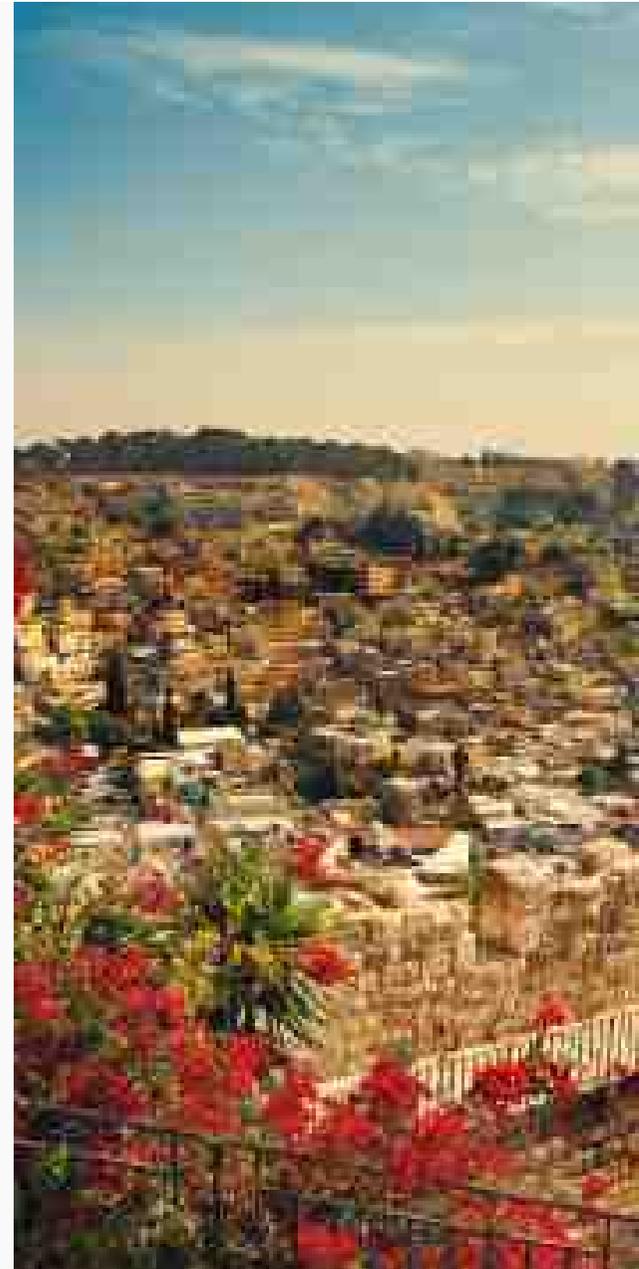


たとえ滅びの時代でも、主に信頼する者には祝福があり、希望がある!!

南11 ヨタム 王の死 歴代誌Ⅱ 27:7~9

ヨタムについてのその他の事柄、彼の戦いと彼の行いは、『イスラエルとユダの王の書』にまさしく記されている。

彼は二十五歳で王となり、エルサレムで十六年間、王であった。ヨタムは先祖とともに眠りにつき、人々は彼をダビデの町に葬った。彼の子アハズが代わって王となった。



南11 ヨタム 南侵 列王記 II 15:37

そのころ、【主】はアラムの王レツィンとレマルヤの子ペカを*、ユダに対して送り始められた。

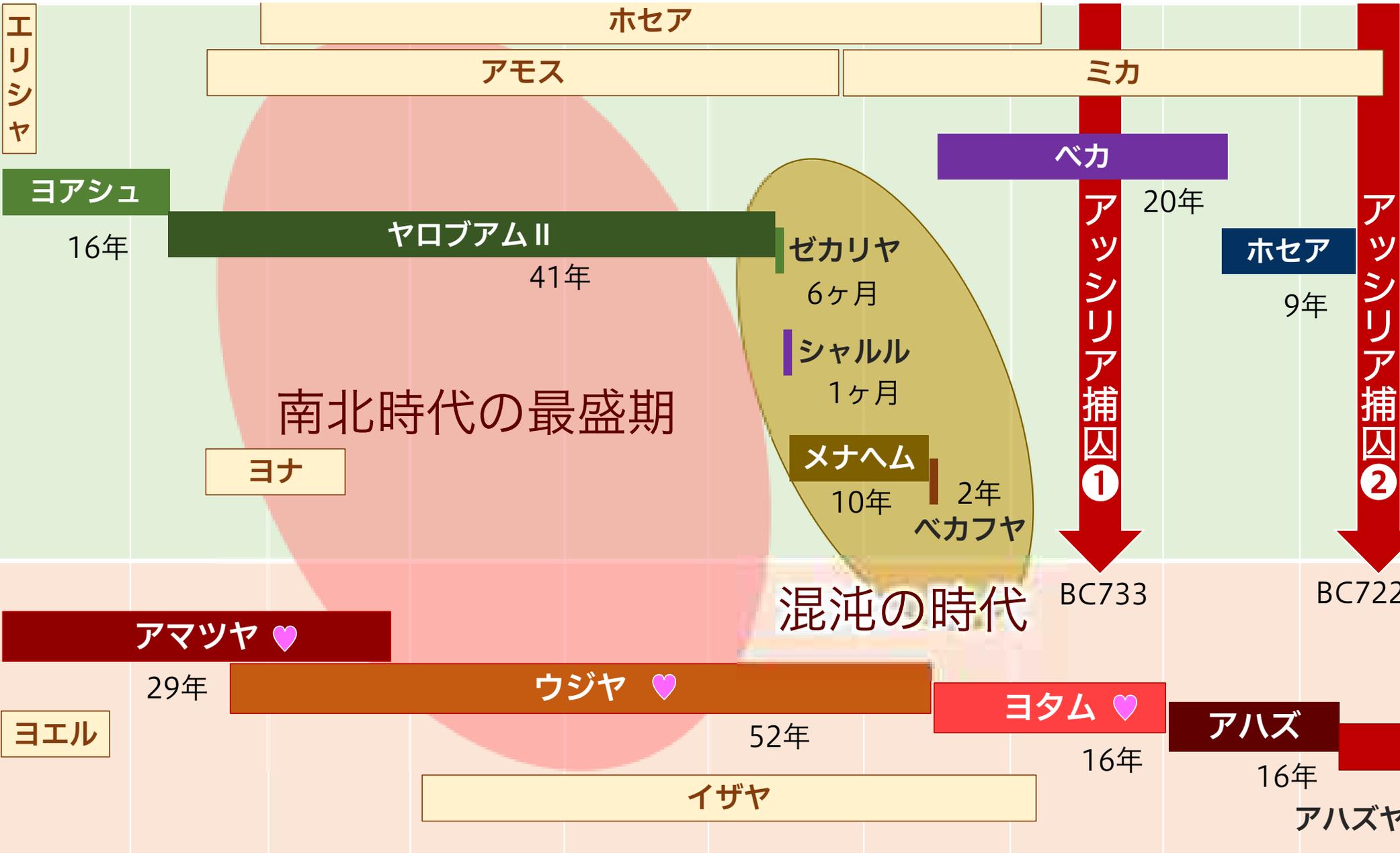
*北方のアッシリアの脅威に押し出される形で南侵した結果？

- ヨタム個人は信仰者として歩んでも、ユダの滅びへの道は変わらない。
- 滅びが迫る世の終わりの時代に、信仰者に求められる歩みと覚悟とは？



北王国イスラエル

南王国ユダ



南北時代の最盛期

混沌の時代



Ⅲ. まとめと適用

滅びに向かう混沌の時代の歩み方

滅びが迫る混沌の南北時代から学べること

- 黄金期の後、混沌に陥り、一気に滅びに向かっていった北王国。憐れみ深い神がなお与えられる、おどろくばかりの恵みがあるが、むさぼるだけで終わるなら、滅びの最後通牒になるかもしれない。
- 滅びに向かう南北時代の混沌は、今の時代にまさに重なる。混沌とした世界で、教会までもが大混乱に陥っていないだろうか。
- 主イエスの警告に耳を傾けよう。大きく成長する地上の教会の中に、偽りの教えが広がり、悪が巣くうまでになると告げられた。

信仰者ヨタムに学ぶ、混沌時代の歩き方

- 北王国の半分を捕囚としたアッシリアの脅威が南王国に迫る中、それでもなお、ヨタムは、神の豊かな祝福を受けて、繁栄した。「自分の神、【主】の前に、自分の道を確認したものとした」からだ。
- 滅びが迫る時代にも、主は、信仰者の歩みを守り、祝福される。世界と教会が、どうなろうと、私への主の呼びかけは変わらない。
- 私の罪のために十字架にかけられ、復活された、主イエスを信頼し、この福音を述べ伝える、宣教の使命に送り出されていこう。どんな状況でも、主が必要を満たされ、用い続けてくださるから。

この時代の行く末を落ち着いて見据えよう

■「アメリカの崩壊」 by山中泉

…アメリカを席卷する共産主義者への一市民の視点からの警鐘。

■従来の共産主義国とは別に、民主主義国家の中でも増大し続ける、共産主義、あるいは共産主義的な価値観、主張の影響力。

■創始者を見れば、その思想の本質は露わになる。

※背教のユダヤ人・マルクス。労働者嫌い、女中への性的搾取。

■共産主義の結果は、究極の独裁体制、史上最大の虐殺、人権侵害。

現実逃避の夢想家たち・神なき価値観の行き着く先

- とあるオランダの思想家。父は牧師だが、キリスト教を拒絶。
「来世がないなら、今世で世界の問題を解決するしかない」
ベーシックインカムを提唱、一躍時の人に。
➔ 極めて共産主義的な思想が、民主主義世界で支持を得る不思議。
- 神なき価値観の究極の形が、共産主義。
共産主義では、人が神に成り代わり、教会すら隷属させる。
- 唯一の神を否定して、人間の力で世界を変えようとするなら、
おのずと、共産主義、共産主義的価値観にたどり着く。

真実の信仰者に求められること

- これから、世界を未曾有の混沌が襲っていくだろう。世界的人口減、大恐慌、食糧危機、戦争、大災害…。しかし、人間が予想できることは、まだ、本当の世の終わりの前座でしかない。
- 地上の教会は、ますます混乱し、世の価値観に吞まれていくだろう。社会に対する影響力も、失っていくばかりだろう。私という個人に、その大きな流れを止める力などあるわけがない。
- しかし、何が起ころうと起こるまいと、信仰者の使命は変わらない。福音を告げ、聖書を解き明かしていこう。

信仰者の変わらない原則に生きよう

- 世界がどうなるうとも、主に信頼する者は、いつの時代も変わらない原則の上に守られている。
主に従うなら、主が必要を満たし、用いてくださる。
- 目の前に与えられた、小さなことに忠実であり続けよう。
主は、必要を満たし、救われるべき魂と必ず出会わせてくださる。
- 大局は主に委ねよう。主イエスは再び来られ、世界を回復される。

ただ主を誇ろう。無力さを嘆く前に、与えられた使命に歩もう。

てん とう
「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、^{そむ} 罪を^{つみ}重ねてきました。

わたしは、まぎれもない^{つみびと}罪人です。この^{つみ}罪をゆるしてください。

わたしは、^{かみ}神の^こみ子イエス・キリストが、
^{つみ} ^{あがな} ^{じゅうじか} ^し

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

^{はか} ^{ほうむ}

②墓に葬られ、

^{みつかめ} ^{ふっかつ}

③三日目に復活した^{しん}こと、を信じます。

^よ ^{こんとん} ^{きわ} ^{ちじょう} ^{きょうかい} ^{おな}
世はますます混沌を極めていきます。地上の教会も同じです。

^{こころ} ^{しゅ} ^{しんらい} ^お ^つ
ざわつく心を、どうか主への信頼をもって落ち着かせてください。

^{しゅ} ^{ふたた} ^こ ^{えいえん} ^{おうこく} ^た ^あ
主イエスは再び来られ、永遠の王国を建て上げられます。

^{ふくいんせんきょう} ^{しめい} ^{あゆ} ^{しゅ} ^{あか} ^{びと} ^{もち}
ただ 福音宣教の使命に歩む、主の証し人として用いてください。

^{しゅ} ^な ^{いの}
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」